



市大病院情報誌



そよ風

Smile! / Service! / Science! 笑顔の大学病院を目指しています



シリーズ 診療科紹介

女性診療科
(産科・生殖内分泌・骨盤底医学)



当院女性診療科(産科・生殖内分泌・骨盤底医学)は、その名の通り3つの臨床分野からなっています。まず生殖内分泌分野では、女性ホルモンの異常や不妊症でお悩みの患者さんを対象とし、人工授精などの不妊治療や不妊症女性の腹腔鏡検査なども積極的に行っております。次いで産科分野では、新生児科をはじめとする他科の協力のもと様々な合併症をお持ちの妊婦さんの妊娠・分娩管理を行っていますが、合併症をお持ちでない妊婦さんの分娩も積極的に受け入れています。さらに骨盤底医学分野では、子宮脱などの骨盤臓器脱や、尿が近い、尿が漏れるといった排尿障害でお悩みの患者さんに対して、手術治療、薬物治療、理学療法などを駆使し、最適な治療の提供を目指しています。これら3つの診療分野は非常に密接した領域であり、これらの診療を通じて女性の一生をサポートし、女性のQOL(生活の質)を向上させることを目標としています。

産科病棟では、平成26年11月から夫による立会分娩を開始いたしました(希望者のみ)。分娩・赤ちゃんの誕生という一生の中で最もすばらしい感動の瞬間を夫婦で共有していただきたいと考えています。

シリーズ 診療科紹介



女性診療科の婦人科腫瘍部門では、骨盤内婦人科腫瘍を中心に手術療法や、化学療法(抗がん剤治療)、放射線療法などを担当しています。子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん、外陰がん、膣がん、子宮肉腫などの悪性腫瘍の手術および子宮筋腫や子宮内膜症を含む卵巣嚢腫などの良性疾患も積極的に手術を行っています。良性疾患に対する腹腔鏡手術が増えているのも特徴です。抗がん剤治療に関してはメニューによっては外来での投与も行っています。また当科のもう一つの特徴としては、新しい抗がん剤治療などの臨床試験にも積極的に参加していることがあげられます。専門外来も開いており、子宮頸部異形成(子宮頸がんの前がん病変)や子宮筋腫の患者さんがたくさん通っておられます。

当科では同じ病気でも病状や程度が個々の患者さんで異なることを重視し、正確な病態診断と徹底した治療前カンファレンスにより個別化された治療を提案し、十分なインフォームドコンセントを得て治療を行います。



女性診療科
(婦人科腫瘍)

Contents

診療科紹介

女性診療科
(産科・生殖内分泌・骨盤底医学)
(婦人科腫瘍)



2015年1月
第23号

- ▷ 診療科・中央部門から
 - ・化学療法センター
(がん医療における患者支援の新たな取り組み)
(外来で抗がん剤治療を受けられる方の栄養をサポートします)
 - ・神経精神科(精神神経科 病棟での防災訓練)
 - ・泌尿器科(女性泌尿器科について)
 - ・皮膚科(悪性黒色腫の新しい薬物療法)
- ▷ がん看護リクナース研修を始めました
- ▷ student doctor制度が始まりました

皆様の療養生活を支援するために

～がん看護リンクナース研修を始めました～



看護部では質の高い看護の提供に向け様々な取り組みを実施しています。

今回は「がん看護リンクナース育成」を目的とした研修を開始しましたのでご紹介します。当院は平成21年度に、大阪府より「地域がん診療連携拠点病院」の認定を受けています。看護部ではがん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師、がん化学療法看護認定看護師、がん放射線療法看護認定看護師などがんに関わる看護のスペシャリストが、各々の専門性を発揮して患者さんの療養生活を支援しています。

さらに今年度から、病棟や外来などで、闘病中のがん患者さんやご家族の心配事や悩みなどの対応を円滑に実施できることを目的に、がん看護リンクナースの育成を始めました。6月からがん看護に関わる部署の看護師に対して、がん看護専門看護師や認定看護師が講師となって、疼痛や吐き気などの症状マネジメントやカウンセリングを日々の経験を交えて行っています。がん看護リンクナースは、研修での学びを自らの看護ケアに活かし所属部署に広め看護の質を高める役割も担っています。

今後も看護部では、がん看護リンクナースが中心となって闘病中の皆様に支援しニーズに応えることができるように研修を充実させていきます。



悪性黒色腫の新しい薬物療法

皮膚科
加茂理英

悪性黒色腫に新しいくすりが使えるようになりました。このくすりはニボルマブ（商品名：オプジーボ、完全ヒト型抗PD-1抗体）です。ニボルマブは完全に切除が難しい、または再発の悪性黒色腫に使えます。ニボルマブはリンパ球に働き、患者さん自身のがん細胞を攻撃する働きを高めて治療するおくすりです。このニボルマブは免疫チェックポイント阻害薬に分類されます。悪性黒色腫は抗がん剤の効果が少なく、治療の主体は手術が中心です。悪性黒色腫の再発予防として主に抗がん剤のダカルバジンと免疫療法薬のインターフェロンが用いられています。このニボルマブにより新たな治療選択の幅が広がりました。

大阪市大では2014年9月よりニボルマブを使用した治療を行っています。さらに嬉しいことに2015年に、ニボルマブとは別に3剤のメラノーマ治療薬が発売予定です。悪性黒色腫の薬物治療がますます充実します。従来薬剤と新しく発売される薬剤を組み合わせ、幅広い悪性黒色腫に対する治療を、私たちは提供します。





がん医療における 患者支援の新たな取り組み

化学療法センター



医療スタッフが身近にいる入院治療と異なり、通院で抗がん剤治療が始まるとき、患者さんは様々な不安を感じておられるのではないのでしょうか。

当院化学療法センターでは2014年5月より、診療報酬改定による薬剤師のがん患者指導を行っており、がん専門薬剤師、がん薬物療法認定薬剤師等が指導を担当しています。

薬剤師は、治療方針や検査データなど、数ある情報の中からお薬について説明し、面談を行います。面談では、使用している抗がん剤の種類に応じた効果や副作用情報の説明とともに、お薬の服用状況の確認を通して、患者さんが抱える疑問や不安を和らげ、抗がん剤治療をしながら過ごす生活をサポートできるように心がけています。また、患者さんの悩みや相談内容は、医師・看護師・管理栄養士等と共有し、チームとして患者さんの治療を支えています。

外来で抗がん剤治療を受けられる患者さんの 栄養をサポートします

化学療法センター
栄養外来

がんを抱える患者さんは、がんに対して身体が立ち向かおうとすることや治療などの影響により、健康なときと比べてエネルギーがたくさん必要になります。しかしながら、がんによる影響で栄養を吸収する機能が落ちたり、食べる気力が低下したり、治療による味覚異常・食欲低下・吐き気などにより食べられる量が減ってしまいます。これが“痩せ”、“栄養不足”につながります。栄養不足では感染症にかかりやすくなったり、治療の継続が困難になる場合があります。また、「痩せてしまって自分らしくないと感じる」、「元気が出なくてしたいことができない」ということも患者さんの生活の質を大きく下げてしまいます。



化学療法センターでは毎週月曜日15時から医師・看護師・管理栄養士・薬剤師の栄養に関する専門家（NST専門療法士）が集まり、そのような悩みを抱える患者さんをサポートするための外来を開設しています（予約制です）。口内炎や味覚異常・食欲低下に悩まれている方、がん治療に必要な栄養について知りたい方、体重減少が気になる方など、お気軽に化学療法センタースタッフまたは主治医までご相談下さい。

女性泌尿器科について



「泌尿器科って男性が受診する科だと思っていました。」そんな声をよく耳にします。でも、みなさんの周りにもいらっしゃるのではないですか？おしこのトラブルで悩んでおられる女性が。もしかして、あなたもそうですか？

実はあまり知られていませんが、たくさんの女性が生涯にわたって泌尿器科の病気で悩んでおられます。

学生のあなた。恥ずかしくトイレに行けず、おなかが痛くなったことはありませんか？セックスする時に痛かった記憶が残っていて、彼氏との関係がぎくしゃくしていませんか？

ママになったあなた。産後から、くしゃみでおしっこが漏れてしまいませんか？

閉経して、人生を謳歌しているあなた。せっかくのバス旅行の計画が、トイレの心配で参加をためらった経験はありませんか？

すべてのみなさんへ。過去の男性医師の問診や診察で、恥ずかしい思いをしたり、不快な思いをしたりして、何かあっても受診を渋っていませんか？

そんな人たちに来ていただくために女性泌尿器科があります。女性医師と女性スタッフでお迎えしておりますので、どうぞご相談にいらしてください。

【女性泌尿器科受診について】泌尿器科外来 ☎ 06-6645-2366

毎週火曜午後の専門外来となります。かかりつけ医より紹介状を作成していただき、女性泌尿器科予約を地域連携担当よりご依頼ください。

すでに他の医師で当院泌尿器科に通院中の方は、担当医に受診希望の旨、お伝えください。不明な点・質問があれば泌尿器科外来にご連絡ください。

神経精神科病棟での防災訓練

南海地震の発生確率が30年以内に70%程度と言われていきます。災害に対する意識を再確認するため身近な災害として病棟内で火災が発生したと想定し、平成26年11月14日6階東神経精神科病棟で医師・看護師・ナースエイド・病棟クランクが参加した防災訓練を行いました。



院内のマニュアルが更新されたことを受け、病棟の特殊性を踏まえたマニュアルも更新しました。昨年度までの防災訓練は看護師のみで行っていましたが、他職種が参加することにより、対応の全体像及び各スタッフがその中でどのような役割を担い、行動すべきかを明確にし、各スタッフの認識を共有しました。神経精神科病棟に入院されている患者さんは、疾患の特殊性からストレスを抱えている方や不安やパニックに陥りやすい方もいます。患者さんの安全を確保し、病状の悪化を最小限にするための援助方法などを話し合いました。

火災をおこさないことが大前提ですが、日頃からの高い防災意識と繰り返しの訓練で、患者さんの安全・安心の確保を図っていきたいと思います。



文責：神経精神科 松田泰範
6階東病棟 稲崎水奈子

スチューデントドクター

student doctor 制度が始まりました

総合診療センター



「学生の〇〇です。本日診察を担当させていただきますがよろしいですか？」こんな場面で患者さんからの「はい喜んで！」の一言が学生を大きく成長させてくれます。

大阪市立大学医学部附属病院は“診療”と“研究”とともに医学生や研修医の“教育”という大きな役割を担っています。特に、医学生の教育に力を入れるためにstudent doctor（スチューデントドクター）制度が平成26年4月より始まりました。

この制度に基づき、病院内で医学部5年生が患者さんと話をしたり、聴診などの身体診察を行う機会を得られるようにしており、その際、スムーズに診察を行うために4年生の頃から実習を通して準備を始めています。

総合医学教育学教室では、医学部4年生を対象に、問診などの医療面接（コミュニケーション）、診察の仕方、互いの採血練習などドクターと呼ばれるにふさわしい人間性と技能を身につけるための教育を行っています。



そのような取り組みの一環として、5年生には、実習だけでなく実践的にも十分な経験を積むことができるように、病院での診察の機会を与えるようにしています。いわば、目の前の患者さんである皆様がstudent doctorを「良い医者」に育てているのです。

ご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。



発行／大阪市立大学医学部附属病院

<http://www.hosp.med.osaka-cu.ac.jp/>

所在地 〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1丁目5番7号

初診受付時間

午前9時～午前10時30分

電話 (06)6645-2121 (代表)

休診日

土・日・祝日、12月29日～1月3日